

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「君は、なぜここにいるのですか？」

「一枚の白い紙を見て、あなたは何を思いますか？」～

これは、平井敬二さん（杏林製薬元社長現相談役、日本医療研究開発機構プログラムオフィサー）が恩師である三橋進先生（群馬大学医学部教授）から投げかけられた問いです。では・・・どうぞ。

初めて三橋先生にお目にかかって衝撃を受けたのは、「Why? (なぜ)」という質問を投げかけられたことでした。

「君はなぜ、ここにいるのですか？」

と。ノロフロサキシンについて研究しに来ましたと答えたら・・・

「私が聞いているのはそういうことじゃない。」

と言われて困ってしまいましたね。助教授に助けを求めたら・・・

「君が当たり前に思っていて、実は奇跡的なことがある。それを考えてみなさい。」

とヒントをくださいました。それを半年ぐらい考え続けるうちに、三つのことに思い至ったんです。

一番最初の奇跡は、この世に生まれてきたこと。二番目は、これまで死なずに生きてこられたこと。そして三番目が、いま目の前の人と出逢うことができた奇跡。一期一会の出逢い。三橋先生からかけがえのない気づきをいただいて、私はその時から「君はなぜ、ここにいるのですか？」を座右の銘に掲げてきました。

もう一つ三橋先生から言われたのは「すべてのものは Why? から始まる」ということでした。先生にエビデンスをお持ちすると「なぜ、なぜ、なぜ、」とたくさんの疑問を投げかけられました。エビデンスの奥の深いところにある真理をみつめなさいと。

「なぜ?」という問いを発することは、科学だけではなく、人の生き方においても大事なことだと受け止めて、私はこの問いかけも大切にしてきました。

また、その頃京都大学を退官される早石修先生が講演で・・・

「臨床医は目の前の患者さんを救えるが、基礎医学を学んでいる学生は、研究の成果によって世界中の何千万人もの人を救える。」と、基礎医学の大切さを説かれたそうです。

三橋先生は、「平井君、我々が取り組むのは医薬品の研究開発だが、これに成功すれば何千万いや世界中の何億人もの命を救えるんだよ。」とおっしゃいました。

私は、この言葉に心を奮い立たされて、「医薬品の研究開発を通じて新薬を創製し、人類の幸福（健康）に貢献する。」という志を掲げて仕事に邁進するようになったのです。「致知」4月号「感謝が人生を開く」より

平井敬二さんは大学で講義をされる機会も多く、その講義では・・・先ほどの「君はなぜ、ここにいるのですか？」とともに「一枚の白い紙を見て、あなたは何を思いますか？」という質問をされるようです。

そして、「太陽が見えましたか？空、雲、雨が見えましたか？森、木が見えましたか？木こりの方、パルプ、製紙工場が見えましたか？」など質問を重ね、たった1枚の紙もいろんな人のおかげで使わせてもらっていること。そして自分が様々な人・ものに支えられて、生かされているということを自覚しましょう。」と話されるそうです。生かされていることを自覚すると「感謝」の心が生まれます。感謝の心を抱いたら、それを何で返すか、どう生きるのか。そういうことを考えられる。

感謝というのは志の源泉であり。感謝の心が強くなるほど人間は成長し、感謝の心を磨くほど人生の深さと広がりが増していくとおっしゃっています。

それでは・・・聞きますよ・・・君が当たり前に思っていて、実は奇跡的なこととは？

